

酒々井町上本佐倉から上岩橋方面へ向かう県道宗吾酒々井線。この2月に住民説明会が実施されるなど、酒々井小通学路となる酒々井町酒々井付近の歩道整備事業がいよいよ動き出しました。

県道宗吾酒々井線 酒々井小通学路 歩道設置へ

歩道未整備の酒々井小学校前県道

平成24年、京都府亀岡市等にて通学中の児童の列に車が突っ込む等、痛ましい事故が多発したことは未だ記憶に新しいところです。事故を受けて、全国で通学路の緊急合同点検が行われる中、酒々井町内では、酒々井小学校前の県道整備が大きな課題となりました。

当時、酒々井町が通学路要対策箇所の検討を進める一方、私自身も酒々井町内の通学路の危険箇所を総点検。中でも県道宗吾酒々井線の酒々井小学校付近は歩道が整備されておらず、違法に流入した大型車両が行き交う協を、子どもたちが通学しなければならなかったのです。



歩道未整備の県道宗吾酒々井線

同通学路におけるアスファルトの溝や消えかけた横断歩道の修復などについては、要望に応じ一部が改善されたものの、肝心の歩道設置が課題として残ったのです。

この県道宗吾酒々井線の歩道設置については、酒々井町が千葉県町村会を通じた要望を行うとともに、私自身も県議会にて問題を取り上げ、県執行部への働きかけを行ってまいりました。これら要望を受け、県は歩道設置の事業化に向け、平成25年より庁内調整を開始し、2月5日の住民説明会実施の運びとなったものです。

同事業は、鶴岡歯科医院付近から酒々井小学校まで約800メートルの区間に両側歩道を設けるもので、今後、境界立ち合い、用地交渉に進む見通し。完成時期について、住民説明会では「おおむね10年くらい」との説明があったようですが、これは地権者との交渉に因るところが大きく、なんとも断言できないというのが実際のところでした。

酒々井小前県道の歩道については、助元千葉県議の尽力により、酒々井交差点からの約200メートルの区間が既に設置されています。地域住民の期待が大きい事業であり、早期完成に向けた働きかけを続けてまいります。

龍角寺地区に廃タイヤ違法搬入 ～県による監視を強化



大量に持ち込まれた違法廃タイヤ（栄町・龍角寺）

昨年暮れより、栄町龍角寺の私有地内に多くの廃タイヤが持ち込まれていることがわかりました。

県担当課が確認したところ、搬入されていたのは、1万5千本もの廃タイヤと破碎済み廃タイヤ。県の許可を得ていない、違法な持ち込みです。県は年明けの1/9、事業者に対し搬入元である茨城県に持ち返るよう指導。

1月末現在、廃棄物の搬入はストップしているものの、事業者による廃タイヤの搬出は見られません。県担当者が漏らす通り、「指導の効果について予断を許さない」状況です。

町内では、かつて「田中重機 産業廃棄物放置問題」の苦い経験があるだけに、行政による監視の目が強化されています。



酒々井洪水対策が急務

～長門川（栄町）の計画的整備を

印旛沼流域では、台風等による浸水被害がたびたび発生しており、関連河川である長門川の整備が喫緊の課題となっています。

洪水対策で大きな役割、 印旛沼と長門川

一昨年10月、台風26号の影響により印旛沼周辺河川が増水し、家屋や道路、農地などに浸水被害が多発したことは記憶に新しいところです。

佐倉市では市内を流れる高崎川が氾濫し、川と堤防の境界がわからなくなるほど川の水位が上昇。酒々井町でも河川流域の田んぼが広く冠水したほか、市街地にも水があふれる事態となりました。この台風26号の被害を受け、佐倉市と酒々井町は、印旛沼の水を管理する独立行政法人・水資源機構に対し、台風接近前に沼の水位を下げるなどの事前対策をとるよう要請。直後の台風27号の接近前には、印旛沼の水位が平常水位より0・3メートル引き下げられることとなりました。

実は、印旛沼と長門川は治水面で大きな役割を担っています。増水時には印旛水門を閉鎖して利根川からの流入を防ぐ

とともに、印旛沼の水を、長門川を通じて利根川に放水することになっており、関係者も「治水対策には」印旛沼の水位調整が極めて効果的」と口を揃えるところ

長門川護岸未整備が 印旛沼放水の障壁に

しかし、長門川河岸は、コンクリート護岸整備はおろか木柵による補強もほとんど行われておらず、栄町和田や同安食地区において、流水による浸食、洗掘被害が相次ぐ等、大きな問題となっています。

そして、さらに深刻なのは印旛沼の水量調節が困難になっていることです。繰り返しになりますが、長門川河岸はほとんど整備されておらず土がむきだし状態。印旛沼増水時であっても、護岸の土がひびかれて崩壊する懸念があり、先述の長門川を経由した利根川への放水も容易にできないのです。

河川整備計画に位置付けし、 長門川護岸整備を

栄町、酒々井町を含む関係市町は県に対し、長門川の早急な整備を要望してきました。

洪水対策において、長門川河岸に大きな課題があることは、県担当課長も認めていることです。しかし、国策定の利根川水系河川整備基本方針に、印旛沼に利根川の洪水抑制調整池としての機能を持たせることが記されているが、長門川についての位置付けがないため、同河川の護岸整備が一向に進まないのです。

長門川周辺はもとより、酒々井町を含む印旛沼周辺の洪水対策のためにも、国の河川整備計画に位置付けし、国・県による長門川の護岸整備が望まれるところ。引き続き県議会において訴えてまいります。

小規模消防広域化の課題

県による推進を働きかけ

小規模消防本部が抱える課題

消防は、災害や事故の多様化・大規模化、都市構造の複雑化や住民ニーズの多様化などの消防を取り巻く環境変化に対応し、住民の生命や財産を守る責務があります。

しかし、小規模な消防本部においては、出動体制、保有する消防車両、専門要員の確保等に限界があり、消防体制としての課題が指摘されてきました。

すなわち、小規模消防では「出動要員に十分な余裕がなく、初動対応も必要最小限になる」「火災原因調査や立ち入り検査等の予防分野における専門要員の確保が困難」「財政規模が小さく、高度な車両、資機材の導入が困難」「人事ローテーションを設定しにくく、職務経験が不足しがち」などの構造的課題を抱えているのです。

栄町の消防職員負担率 県内最大

現在、千葉県内31消防本部のうち、管轄人口が10万人に達しない小規模消防本

部は10本部（32％）。特に栄町消防本部は、管轄人口が2・1万人と県内最小規模です。同本部の人口1万人あたり消防職員負担率は19・5人と、自治体の負担度合は県内最大となっています。

消防本部別 管轄人口・面積、消防職員数（印旛郡市）

	管轄人口	管轄面積(km)	消防職員数	人口1万人あたり消防職員負担率
成田市消防本部	13.1万人	233.7	231人	17.6人
栄町消防本部	2.1万人	32.5	41人	19.5人
富里市消防本部	5.0万人	53.9	78人	15.6人
佐倉市八街市酒々井町組合消防	27.1万人	197.4	367人	13.5人
印西地区消防組合消防	15.7万人	159.2	217人	13.8人

管轄人口規模別 消防本部一覧（千葉県）

5万人未満 (1本部)	5～10万人 (9本部)	10～20万人 (14本部)	20～30万人 (2本部)	30万人以上 (5本部)
栄町(2.1万人)	銚子市 旭市 君津市 富津市 袖ヶ浦市 など	木更津市 成田市 習志野市 印西地区組合 八千代市 など	市原市 佐倉市八街市 酒々井町組合	千葉市 市川市 船橋市 松戸市 柏市

岩井の求めに応じ 房総のむら施設改修が決定！



老朽化が進む房総のむらの公衆トイレ（印旛郡栄町）

老朽化の激しい、公衆トイレをはじめとする、房総のむら園内の施設について、県は岩井の一般質問での求めに応じ、早期改修に着手することを決定しました。

園内の洋式トイレ わずか23%

房総のむら園内トイレの老朽化問題については、「県政かわら版 冬号」にてご紹介したばかりです。園内に合わせて14か所、61個のトイレ器具のうち47個（77％）が和式トイレであり、洋式トイレはわずかに14個（23％）しかありません。昭和61年の開園以来、設備改修されていないため、ウォッシュレット等の設置もなく、さびや汚れ等、トイレそのものの老朽化も目立ちます。また、園内の案内サインや土でできた園内歩行路も経年劣化が激しく、バリアフリーの観点からも大きな問題です。

森田知事「房総のむら、やっていこう」

2/25の県議会一般質問にて、これら房総のむらの老朽化問題を指摘。県は、トイレの洋式化など計画的な施設修繕や改修に課題があると認め、長寿命化とあわせ魅力ある施設となるよう検討を進める方針を示しました。

特に質問直後には、森田知事より直接「房総のむら、やっていこう」「トイレの件はすぐやるよう、担当部長に指示を出した」との言葉も。園内トイレの早期改修はもちろん、武家屋敷の増設等の房総のむら施設拡充に向け、大きな弾みとなったことは間違いありません。

高崎川（酒々井）護岸整備に大きな前進

2月県議会一般質問

河床の洗掘、朽ちた木柵があらわに

酒々井町を流れる高崎川護岸の問題については、これまでも繰り返しお伝えしてきました。生活排水の増加等から、河床の洗掘や護岸崩壊が激しく、朽ちた木柵があらわになるなど事態は深刻。住民は、川に面した田んぼが侵食されてしまうと悲鳴をあげています。

酒々井町は、高崎川の護岸整備に前向きな立場ですが、河川用地の中に国名義や個人所有の土地が存在する等の問題から、同河川の県から町への移管手続きが進まなかったため、町としても高崎川の整備に着手できないのです。



両岸が削られる高崎川



住民自らが盛土した河土手

課題だった県から町への移管が決定

昨年2月に、印旛沼土地改良区をはじめとする農業関係者とともに現地調査を実施。直後の県議会予算委員会にて高崎川の問題を取り上げた後も、6月には要望活動のため、土地改良区長らとともに県庁を訪問し、同河川の町への移管を早期に進めるよう働きかけてまいりました。

その結果、千葉県は酒々井町との協議のテーブルにつき、県として高崎川に関わる公図の整理を進める等して、町への移管準備を行うことを決定。移管後の高崎川の護岸整備についても、千葉県と酒々井町との間で協議を行っていくこととなりました。

2月県議会の一般質問では、高崎川の土手の沈降や田んぼの水の流出に、住民自らが盛り土等の対応をなくてはならない現状を指摘。住民への直接被害に関し、県による予算措置を強く要望いたしました。

岩井やすのりプロフィール

昭和45年(1970年)1月10日生まれ 45歳
早稲田大学大学院 政治学研究科修了

NPS成田予備校での講師経験を経て、平成16年の栄町議会議員選挙に初当選。のち2期目当選。平成23年の千葉県議会議員に初当選した。妻と成田西陵高校に通う長女、栄東中学校に通う長男の4人家族。

目の不自由な両親に育てられ、困窮する障害者の生活を多く目の当たりにしてきたことが政治家を志すきっかけに。日頃から続ける朝の駅頭・街頭宣伝活動は年間130～150日、県議当選以降の3年半で計480日を超える。(平成27年2月末現在)

無所属

岩井やすのり 45歳

HP <http://www.iwai-y.jp> mail mail@iwai-y.jp

岩井やすのり事務所：印旛郡栄町安食台2-26-23 大山ビル202
TEL.0476-36-7799/FAX.0476-36-7802

酒々井後援会事務所：印旛郡酒々井町東酒々井3-3-529
TEL.043-496-0003

岩井やすのり

検索